

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570106898		
法人名	医療法人 惇慧会		
事業所名	グループホーム・サラ		
所在地	秋田市新屋北浜町21-47		
自己評価作成日	平成30年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成30年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念・基本方針にも掲げている、コミュニケーション(入居者様・ご家族様・職員間における)を大切にしている。対入居者様においては毎日、新聞などを活用し話題を展開させゆったりと語り合う場を設けている。また入居者様の日常生活における観察に努め、一人一人が安心・安全に生活が遅れる様にADLや健康管理面で主治医と報告相談を行っている。行事・レクリエーションにおいては、入居者様の要望により外食の支援や、季節に応じたイベントを開催し、時にご家族や地域の方も招いている。食事においても、要望のあった献立を取り入れている。常に職員は職務に楽しみを見出し、業務にあたっている。入居者様の健康管理面において在宅療養支援診療所との契約により、医師の往診が受けられ24時間体制で急変時にも迅速な対応が可能である。また、訪問看護との連携による健康管理、地域のかかりつけ薬局より薬の管理や指導・助言が得られる等、医療面における体制も整っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの収穫祭には、町内会長、老人クラブ会長、民生委員の協力による新屋北浜町の住民の参加や、入居者家族に加えスタッフ家族も参加している。ホームの所在地である北浜町住民との連携による本格的な防災訓練に参加している等、地域とのつながりが非常に良好なホームである。法人内の音楽療法士が週2回訪問し、音楽を通じて脳を活性化させるリハビリテーションを実施、又、パステルアートの講師が来訪しての作品作りも楽しみの一つ。毎月発行されるホームの機関紙「まめだより」は、日常生活や行事あるいは外出の様子が数々の写真とスタッフの手書きで構成され、家族とのコミュニケーションの活性化に、この機関紙の存在が一役かっている。勝平地区地域包括支援センターの他、認知症地域支援推進委員として新屋地域包括支援センターが運営推進会議に参加しており、参加した民生委員から、専門性を高めるために非常に役立つ会議であると感謝されている。スタッフ同士が互いに影響し合い、切磋琢磨しあうことがケアの質の高さにつながっているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週月曜日の申し送りにて、理念の唱和を行っている。ホール、事務所等にも掲示し、常に目につくようにして意識づけしている。理念に基づいた個人目標を設定し、評価振り返りを行っている。	法人の理念を踏まえ、ホーム設立当初にグループホームの理念を定めたとのこと。理念は「質の高いサービス提供」と「心のかよい合う」という言葉が印象的な簡潔な一文であり、加えて5項目からなる基本方針で構成されている。ホームの理念を基に、毎年度の目標が具体化されている他、入居者とスタッフの協同のキャッチフレーズ「笑顔」を採用している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事(夏祭り、避難訓練)に参加している。事業所内行事(食事会、収穫祭、避難訓練等)へのお誘いやお手伝いに協力して頂いている。	先日開催されたホームの行事である収穫祭には、町内会長や老人クラブ会長、民生委員の協力による新屋北浜町の住民の参加や入居者家族に加えスタッフ家族も参加していることが確認できた。市社会福祉協議会が管理機関である秋田市介護支援ボランティア制度を活用し、入浴日に、入浴後のドライヤー介助や飲み物の提供、あるいは話し相手として地域のボランティアを利用している。地域とのつながりが非常に良好なホームであるとの印象を強く感じた。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域運営推進会議を定期的開催し、入居者様の生活状況等を伝えたりする中、対応の仕方等について質問や意見交換を行った。地域の中学生の職場体験受入れを行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価を受けた後の運営推進会議では、結果を報告している。また指摘を受けた災害対策について話し合い、地域との連携を確認している。	町内会長、老人クラブ会長、民生委員3名、包括支援センター、認知症地域支援推進委員、家族、入居者が運営推進会議に参加しており、正に地域ぐるみの構成メンバーである。参加した民生委員から専門性を高めるために非常に役立つ会議であると感謝されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者様について、通院や現在の状況等について、その都度保護課の担当者へ報告相談し対応している。災害報告についても確認しつつ対応した。	勝平地区地域包括支援センターの他、認知症地域支援推進委員として新屋地域包括支援センターが運営推進会議に参加している。認知症地域支援推進委員の取り計らいで、認知症の人を支援する意思を示すオレンジ色マスコットを入居者が作成協力し、認知症サポーター養成講座を受講した特別支援学校の生徒と交流、大きなマスコットを生徒にプレゼントしたとのこと。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修へ参加し拘束をしないケアを理解し支援に努め、内部研修も行っている。防犯上19:30～翌5:00まで玄関施錠を行っている。マニュアルや様式は整備しているも、事例はない。	運営推進会議に身体拘束廃止委員会の機能を追加しており、繰り返し何度も話し合いが実施されていることが議事録から確認できた。秋田市認知症グループホーム連絡会ケアパートナーズや秋田県認知症グループホーム連絡協議会主催の身体拘束廃止に関する研修会には、全スタッフが交代で参加するよう配慮しており、内部研修でも積極的に取り上げられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての外部研修に参加して意識を高めるとともに、常に利用者の立場になって考えるよう意識し言葉の暴力にならないよう注意を払い積極的に防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修へ参加し情報を得て知識を深めるよう努めている。現在民間企業の身元保証サービスを利用している方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には時間を設けて十分な説明を行い、利用者や家族等の不安や疑問点を確認している。また、入居後の契約内容が変更になった際には、文書にて同意を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニット毎に意見箱を設置。面会時には雑談を交えたコミュニケーションを心がけたり、メールにて生活状況を伝えるなど、ご家族様が要望等を伝えやすいよう配慮している。	毎月発行されるホームの機関紙「まめだより」を全家族に発送しており、日常生活や行事あるいは外出の様子が数々の写真とスタッフ手書き紹介で構成され、家族とのコミュニケーションの活性化にこの機関紙の存在が一役かっている。全入居者の写真が掲載されているかいつも気遣っているとのこと。機関紙は、担当スタッフ3名で輪番で作成することで、毎月の発行を可能にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フィードバック面接や毎朝の申し送り、連絡ノート活用、毎月1回のミーティングにて意見や提案、要望を話し合い、検討、周知徹底後実施している。フラットな環境づくりを心がけ職員は、いつでも意見や提案をしやすい状況にある。	日常の業務の中で気づいた時はもちろんのこと、連絡ノートやミーティング時にもスタッフの意見や気づき、あるいは提案を出し合っている。スタッフ同士が互いに影響し合い、切磋琢磨しあうことがケアの質の高さにつながっているホームである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己目標の設定と面談を実施し評価後人事考課に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や個々のレベルに応じて、外部研修や法人内部研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会等の研修に参加する事により他施設訪問や見学、交流会への参加、情報交換によりネットワーク作りに努め、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様からも事前情報を得るとともに、日常の会話やしぐさ、動作等の目配りをし、不安や困り事を聞きとり、不安の解消に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込の際や入居前に見学をして頂き、普段の生活を見ていただいたうえで質問や要望を伺っている。また、ご家族様が不安に思っている事や困っている事を確認し、それらを踏まえて今後の相談を行っている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の持つ知識や経験・体験されたことを教えて頂きながら出来ることを一緒にいき、いろいろなところに希望を取り入れ、日々の生活の中で関係を築いている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会やメールで日常の状況を伝えながら、時にはご家族様の不安な思いに耳を傾け入居者様の思いを伝えている。それらをふまえ、共に入居者様を支えていく関係を築いている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人、ご親戚の面会や遠方にあるご家族との電話の取次ぎ、又ご家族恒例行事への外出・外泊等、協力を得て支援をしている。	一人暮らしだった入居者の家に、郵便物の確認を兼ねてスタッフと出向いたり、家族と共にお墓参り、近くのコンビニやスーパーへの買い物、住宅街の公園まで秋のコスモスを見ながら散歩等々、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう努めている事例を数多く確認できた。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでのお茶など全員が集うコミュニケーションの場を多く持ち、共通の話題提供などで楽しく会話に参加できるよう努めている。ユニット間の交流もあり、レクリエーション等なごやかに過ごされている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も近況をお知らせ下さるご家族や、相談の依頼がある。関係機関とも連携を図り支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	穏やかな雰囲気の中で日常会話などから、入居者様ご本人の思いや希望の把握に努め、意向のくみ取りが困難な場合にはご家族様とも連絡をとりながら支援している。	新聞の広告がきっかけで衣類の購入希望があり、少人数で買い物にでかけ、帰りにパスタやピザが食べたいとのことで早速立ち寄ったとのこと。寿司が食べたいとの希望に献立を変更して皆で寿司の出前に舌鼓。エプロンをし、茶碗拭きや台所仕事を手伝っている入居者は、自分はお手伝いのためにこのホームに来たんだと自負しているとの微笑ましい事例を紹介いただいた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前アセスメントにより、生活歴や生活習慣などを伺い全職員が目を通し把握に努めている。また、入居後の日常会話やご家族様より面会時等に得た情報も申し送りなどで共有に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の食事摂取量やバイタルチェックと日常生活状況の観察により心身状態の変化や把握に努めている。また日々の関わりにおいて、生活習慣や有する能力などの把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的または状態変化時にカンファレンスを行い、本人の状態に見合った統一したケアができるよう努めている。ご家族へ面会時等随時状況を伝え対応の相談や、ご本人やご家族の意向を確認しながら介護計画を作成している。	朝の申し送りや日常業務の中で、互いにリアルタイムで情報交換をしていることを基に、ミーティングで再確認することで、現状に即した介護計画を作成するよう取り組んでいる。家族とは面会時に対面で情報交換に努めており、当日も管理者が訪問した家族と話し込む姿が確認できた。県外の家族とは電話で意向確認したり、Eメールで連絡を取り合うとのこと。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・変化・気づきを細かく記録し、状態変化時には緊急カンファレンスを実施し、介護計画に反映させている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々、ボランティアの訪問や地域行事への参加を通じて交流し支援している。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族様の意向を尊重し、受診時にはご家族様の協力を得ながら行っている。また、かかりつけ薬局より、アドバイスや指導が受けられる体制が整っている。	入居時に本人や家族の意向を把握している。往診してくれるクリニックの存在から大半の家族はホームのかかりつけ医を受診する傾向にある。歯科医についても、治療が必要になった時点で家族に連絡し、相談している。ホームのかかりつけ薬局が、一包化や錠剤を散薬に変更したり、薬剤名や氏名を印刷してくれたりしており、気軽に何でも相談できる体制が確立している。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックや状態変化時には、施設看護師より在宅療養支援診療所の看護師へ報告し医師の指示を仰ぐ体制ができています。また週1回訪問看護師によるバイタルチェックも実施されており、相談、支援体制が確立されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先医療機関との連絡・連携を図り、入院中も面会に行き病状の把握に努めている。退院に向けてSW・ご本人様・ご家族様と情報交換し互いに不安なく生活に戻れるよう努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合を想定し、早い段階より本人家族の意向を主治医に伝え、職員も情報共有している。その上で、事業所のできる支援体制を整えている。	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について、出来る限りホームで対応したいという方針を本人・家族に説明している。実際にホームで対応できる限界までケアした事例も確認できた。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救急救命講習会に参加している。緊急時の手順や搬送医療機関一覧を作成。また、感染症について、実践を交えた勉強会を行っている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回火災発生を想定、震災時の訓練を行っている。また年1回消防署・町内会の協力を得た避難訓練を行い、町内の避難訓練にも参加している。	前回の評価結果を踏まえ、全スタッフを対象に緊急連絡網による伝達訓練を抜き打ちで2回実施している。スタッフの殆どが地元勝平地区の住民であり、緊急時は2分から5分でホームに駆け付けられる現状にある。ホームの所在地である北浜町住民や町内会長、老人クラブとの連携による本格的な防災訓練に参加している他、多様な想定を採用しては、毎月避難訓練を実施している姿勢に驚かされる。地震想定や夜間の駆け付け訓練にも今後挑戦したいとのこと。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室を訪室時は必ずノックをしている。トイレ誘導時や衣類交換の必要な時等には側に行き小声で声をかけ配慮している。入浴の際も一人一人の意思を尊重し配慮している	前回の評価結果を踏まえ、知覚・感情・言語による包括的コミュニケーションに基づいたケア技法の基本である「ユマニチュード入門」の書籍をホームにおけるケア技法の基準とし、スタッフ採用時やミーティング時に内部研修として内容を確認している。今後は、ホーム独自の行動基準を作成したいとの意向が確認できた。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人との会話などの中から、希望や要望を聞き出し、自己決定できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、個々の生活リズムを大切に、気持ちに寄り添いながらゆっくりと過ごしていただくよう支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時には顔や爪の確認を行い、移動美容室を利用し希望される方はカットをしていただいている。ご家族の協力もあり、季節に合った服装が出来る様に支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常会話のなかで、旬の食材メニューや食べたいものを話題にあげ、日頃の献立や行事食等に取り入れている。配膳、後片付け等入居者様の力量や役割に応じて共に手伝って頂いている。	2ユニットで共通の献立ではあるもののアレンジはユニット毎に工夫している。当日の昼食は普通のメニューにも関わらず絶品で実においしかった。先日のホームの収穫祭では、希望者にノンアルコールビールを提供したとのこと。家族からのわらびの差し入れも嬉しい。入居者と共にだまこもち作りを楽しんでいる。外出の帰りのソフトクリームは大人気。入居者個々が出来ることで食事の準備や片付けに参加している。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士作成の献立に基づいて調理をしている。又、食事量・水分量の把握に努め、低下が心配される際には水補の促しや補助食品ゼリー等を提供し水分量の確保に努めている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に合わせた口腔ケアを行い、口腔内の清潔に努めている。義歯の不具合等を確認し、歯科往診への支援も行っている。また冬期間は感染対策として食前のうがいも行っている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンやサインの把握に努め、時間誘導等によりスムーズに排泄できるよう支援している。夜間においては、声掛け誘導する方もいるが、心地よい眠りをして頂くように職員間での情報共有に努めている。	訪問した我々が全く気づかない程、生活のリズムの中で本人の様子を察知しては、スムーズに誘導しているように感じた。入居者個々の排泄リズムを把握しており、立ち上がった時にスタッフが側に寄り、何気なく誘導しているとのこと。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の有無の確認を行い、体操や水分補給にて便秘予防に努めている。また状態に応じて医師や看護師に相談し、薬剤調整等の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前に体調やバイタルチェックを行っている。曜日は決めているが、個々の希望に添えるよう、要望や時間の調整等を行い支援に努めている。入浴前の体調把握で健康状態を確認し安心して入浴を楽しめる準備を整えている。無理強いせず自然な声掛けの中で入浴できるよう努めており、職員との会話も楽しんでいただいている。	火曜日と金曜日を入浴日と定めているが、明日はインフルエンザ予防接種なので今日は入浴を実施しているとのこと。入浴は入居者とスタッフが1対1になれる貴重な機会なので、「昔はねえ」と個別の会話をしてはコミュニケーションを図る機会とのこと。入浴を拒否する方には、あの手この手で自然に浴室へ誘導し、入浴できるよう工夫している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースや体調に合わせて、居室で休んでもらったり安心して入眠して頂けるよう、室温調整等にも気を配っている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容や効用・副作用を理解し、誤薬や飲み忘れがないようダブルチェックをしている。状態観察に努め、変化時には医師や看護師との連携を図り、薬についてはかかりつけ薬局へ相談、アドバイスをもらい支援している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「出来ること」を積極的に行っていただいている。できないかもしれないが興味があることにも無理強いせず、少しずつでも行ってもらい、出来ることの幅が広がっていくよう支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域行事への積極的な参加や、その季節に応じた遠方へのドライブツアーなどを行い、リフレッシュを図っている。ご家族の協力により温泉に出かけられた方もいる。	毎月発行されるホームの機関紙である「まめだより」には、あちこちに出かけている写真が満載され、出来る限り戸外に出かけるよう取り組んでいるホームであることが一目瞭然である。	日常の散歩や気分転換の外出、あるいはウッドデッキでの外気に触れる様子等を今までも機関紙「まめだより」で家族に紹介しているが、今後も継続し紹介するよう期待します。
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様了解のもと、ご本人の希望や能力に応じてお金の管理や買い物の際のを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や、友人・知人の方との電話の取り次ぎや、希望に応じ電話をかけたり支援を行っている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の移り変わりが眺められる大きな窓を備えている。季節毎にレクリエーションで入居者様と共に作った作品を飾ったり、ソファの配置を工夫するなど穏やかに居心地良く過ごしていただけるよう努めている。	プレイルームの一角の開放スペースには広い畳の間、そして掘りごたつ、ホーム全体が始終ほのかに温かい。広いウッドデッキがプレイルームの大きな窓から確認できる。ホーム名のサラとエンは、それぞれ平家物語の一節、沙羅双樹の花の色 盛者必衰の…の沙羅と、外部の自然、近親者、そして新しい世代との縁であると知り、2名のアーティストがコンセプト設計者、居心地の良さを引き出そうとする設計に感嘆した。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様は、自然な形で自由に居室やホールへ移動し、過ごされている。ホールにはソファが置いてあり少人数で会話が弾む様子も見られる。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご自宅よりお持ちいただいた馴染みの家具などを置き、住み慣れた空間に近づけるよう工夫を行っている。また、レクリエーション等で作ったご本人様の作品も飾る等している。	エアコン・パネルヒーター・床暖・ベッド・一人には充分過ぎるクローゼットと押し入れが完備され、畳と洋室が用意されている。パステルアートの先生の指導のもと、本人が作成した小さな作品が居室の入り口に飾られていた。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様一人一人の能力を見極め、その方にあった声かけ、誘導を繰り返し行い、自然な形で自立した生活が送れるよう支援している。		